

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：32661

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H03987

研究課題名(和文)がんゲノム医療に対応するがん看護専門看護師育成のための介入研究

研究課題名(英文) Intervention Research for the Development of Oncology Certified Nurse Specialist for Cancer Genome Medicine

研究代表者

村上 好恵 (MURAKAMI, YOSHIE)

東邦大学・看護学部・教授

研究者番号：70384659

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,500,000円

研究成果の概要(和文)：目的は、がんゲノム医療において役割を担うことを期待されているがん看護専門看護師に、e-learningと集合教育の組み合わせの教育プログラム案に取り組んでもらい、プログラム内容や運用方法に関して意見を収集し、改善点を見出すことである。研究協力者は17名で、WEB型交流ディスカッションの参加は14名であった。看護師経験年数が長く、がんゲノム医療や遺伝性腫瘍の患者や家族への看護に関与しているものが多かった。e-learningの取り組みやすさと、集合教育との組み合わせによって学びが促進されたと評価は高かった。今後収集した意見からプログラムを改善し、全国のがん看護専門看護師に提供していく予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

e-learning動画は、計8本を作成した。視聴時間は平均264分(約11日分、範囲：100～1068時間)、総視聴プログラム数は平均34本(範囲：9～128)であった。短期間での視聴時間の長さは、がん看護専門看護師の学習ニーズの高さを示している。改善に対する意見をもとに教育プログラム案を修正し、全国のがん看護専門看護師に提供できれば、がんゲノム医療を受ける患者や家族および遺伝性腫瘍の可能性が疑われる患者や家族に対するケアの質向上につながると期待できる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of the study was to collect opinions on the content and operation of the program and to identify areas for improvement by having oncology certified nurse specialist, who are expected to play a role in cancer genome medicine, work on a proposed educational program that combines e-learning and group education. Seventeen participants collaborated in the study, and 14 participated in a web-based exchange discussion. Many of them had long experience as nurses and oncology certified nurse specialists, and were currently involved in genomic cancer care and nursing care for patients and families with hereditary tumors at their own institutions. The ease of the e-learning approach and the combination of the e-learning program with the group education facilitated learning and was highly rated. We plan to improve the program based on the collected feedback and offer it to oncology nurse specialists nationwide.

研究分野：がん看護学

キーワード：がん看護 遺伝看護 遺伝カウンセリング がんゲノム医療 がん看護専門看護師 教育プログラム 介入研究

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

我が国のがん対策は、2007年にがん対策基本法が制定されてから、がん対策推進基本計画に基づいて推進されてきた。2018年10月に発表された「第3期がん対策推進基本計画」の中心は、個人に最適化された患者本位のがん医療を実現することであり、初めてがん対策推進基本計画の中に「がんゲノム医療」という用語が記載されることになった。がんゲノム医療の中心は、がん遺伝子パネル検査であり、これは、がん治療効果が見込めなくなってきたがん患者に対して、他の薬剤を探索することを目的として、がん細胞について約数百種類の遺伝子を網羅的に一括して行う遺伝子検査である。

がん領域におけるゲノム医療には、大きく2つの側面がある。一つは、既にごんと診断されて治療を行っている患者や標準治療効果の限界が見えてきた患者に対して、何らかの「個別化治療」を目的としたがん細胞の遺伝子検査を行うものである。もう一つは、家系内で受け継がれている可能性のある遺伝性腫瘍に対する「個別化予防」を目的とした生殖細胞系列の遺伝学的検査である。前者の「個別化治療」は、急速に開発されており、がん患者の生存率の延長に寄与している。さらに、今までであれば標準治療効果の限界後はベストサポータティブケアに移行するしか手立てはなかったが、ゲノム解析により更なる治療薬の探索が行われ、患者は一縷の望みをかけて遺伝子検査を受けている。一方で、この前者の「個別化治療」を主目的とする検査において、解析方法によっては、後者の家系内に受け継がれている病的意義のあるバリエーション（遺伝子の変異）が検出される場合もあり、その対応に臨床現場は混乱している。がん診療に携わる専門職ですら遺伝性腫瘍の患者や家族への対応経験が少なく、遺伝性腫瘍の知識不足による苦手意識もあり、患者や家族に対してどのように対応すればいいのか苦慮しており、がん遺伝子パネル検査を受ける前に、遺伝性腫瘍に関連する遺伝子変異が見つかる可能性を過剰に説明したり、反対に、結果が出てから説明しようと検査前の説明を控えてしまったり、という状況があった。

遺伝性腫瘍は、近年の分子遺伝学の発展により解明がすすみ、全がんの10%を占めるといわれ、多臓器にわたり同時性・異時性のがんを発症するため、早期に発見されれば生命予後にも影響を与えると報告されている。例えば、遺伝性乳がん卵巣がん症候群は、1990年代に原因遺伝子（BRCA1とBRCA2）の特定が行われてから、診断がすすみ、その結果、術式選択や薬剤選択など日常診療へ大きな変化をもたらし、2017年には遺伝性乳がん卵巣がん症候群診療の手引きが刊行された。このような医療の変革期において、遺伝性腫瘍への偏見や苦手意識を持つことなく、がんゲノム医療に携わることができる人材育成が急務である。そこで、遺伝性腫瘍への偏見や苦手意識を持つことなく、がんゲノム医療に携わることができる人材育成を行うために、がん看護専門看護師を対象として、がんゲノム医療における看護師の役割に関する教育プログラムを開発し、介入効果をクロスオーバーランダム比較試験にて検証することを目的として計画をたてた。

しかしながら、このような状況に対して、関連学会（日本遺伝性腫瘍学会、日本遺伝カウンセリング学会、日本人類遺伝学会、日本遺伝子診療学会など）が研修会を開催し、がんゲノム医療に関する最新知識やがん遺伝子パネル検査に関する知識、遺伝性腫瘍の遺伝子変異が見つかる可能性などの情報を提供し始めた。その結果、研究開始以降から、がんゲノム医療と遺伝性腫瘍に関する学習の機会が大きく進展し、学習リソースが増え、様々な学会等から無料で提供されているものも存在する。そのため、知識の提供方法として集合教育とe-learningのどちらが効果があるのかという非介入群を設定することは、研究参加者へのデメリットが大きいため介入方法を再検討し、e-learningプログラムと集合教育での事例検討という2部構成を組み合わせた教育プログラムへと変更した。

そこで、修正した計画は、遺伝性腫瘍の患者や家族の状況に対するアセスメントの視点について、個人が場所や時間を問わず利用できるe-learningと、全国から参加しやすく他の受講者とディスカッションを行うことができる遠隔会議システムを用いたWEB型交流ディスカッションの組み合わせた教育プログラムとした。遺伝性腫瘍の患者や家族のおかれた状況は、疾患や遺伝子検査に関する知識のみで対応できるものではなく、家系ごとの個別性を把握し、患者や家族それぞれの心情をアセスメントし、個人と家系全体の状況への対応や次世代への対応などが求められる。そのため、遺伝性腫瘍の患者や家族の状況をどのようにアセスメントし、どのようなケアを提供する必要があるのかというアセスメントを重視した教育プログラムを試作した。そして、e-learningは、インターネットを利用したコンピューター上での学習方法であり、場所や時間を問わず利用できることから、学習ニーズは高く、従来の対面式講義と同等の知識習得が可能であるとの報告がある。一方で、他の学生や教員と直接交流がないため、受講が受け身になりがちであることについて不安があり、この不安が強い場合にはe-learning受講希望に影響することが報告されているため、WEB型交流ディスカッションを組み合わせた。

以上のことから、本研究は、がんゲノム医療において役割を担うことを期待されているがん看護専門看護師を対象に、試作した教育プログラムに取り組んでもらい、プログラム内容や運用方法に関して意見を収集し、改善点を見出すことを目的とした。本研究により、明らかになった改善点をもとに教育プログラムを修正し、全国のがん看護専門看護師に提供できれば、がんゲノム医療を受ける患者や家族および遺伝性腫瘍の可能性が疑われる患者や家族に対するケアの質向

上につながると期待できる。

2. 研究の目的

本研究は、遺伝性腫瘍の患者や家族の状況に対するアセスメントの視点を学ぶ教育プログラム内容を e-learning と WEB 型交流ディスカッションを組み合わせた方法で学習することについて、研究協力者からプログラム内容と運用方法に対して意見を収集し、改善点を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

1) 研究デザイン

本研究のデザインは、試作した教育プログラム内容を e-learning と WEB 型交流ディスカッションを組み合わせた方法で学習することについて、研究協力者からプログラム内容と運用方法に対して意見を収集する探索型研究である。

2) 研究協力者の選定

対象は、がん看護の実践において専門的な視点での看護を提供する役割を担っているがん看護専門看護師とした。がん看護専門看護師は、がんゲノム医療においても役割を担うことを期待されているため、遺伝性腫瘍の患者や家族への看護に関する学習ニーズがあり、遺伝性腫瘍の患者や家族へのケアを検討するための知識と事例ごとのアセスメントの視点を学ぶ教育プログラムに対して積極的に意見を述べることができると考えた。

3) 研究協力者の募集

- (1) 東邦大学看護学部倫理審査委員会の承認後、一般社団法人日本専門看護師協議会に依頼し、がん看護分野メーリングリストでの募集の許可を得て、研究協力者募集用ポスターの配信を行ってもらった。
- (2) 研究協力の説明文書を読み、研究協力意思のある場合は、研究責任者へメール連絡してもらった。
- (3) 研究協力意思のメール連絡の受信後、郵送先を確認し、研究責任者より研究協力のお願い文書、同意書・同意撤回書、切手付き返信用封筒 2 通（同意書送付用、同意撤回書送付用）を郵送した。
- (4) 研究協力者から、研究者保管用同意書 1 通の返信後、研究責任者より研究用専用ホームページのアドレス、個人 ID、仮パスワードをメールで送信した。このメールを受理した研究協力者は、自分で研究用専用ホームページにアクセスし、パスワードを変更して自由な時間で e-learning 視聴を開始できる。
- (5) 募集人数は、30 名とした。WEB 型交流ディスカッション当日は、遠隔会議システムを活用するため、1 つの画面に最大 49 名まで表示できる設定があるが、ディスカッションを行うため、研究者 4 名を含めて 34 名 1 画面表示という設定を考え、募集人数を 30 名とした。

4) 教育プログラム内容

(1) e-learning プログラム：

e-learning 動画は、計 8 本である。疾患基礎編 2 本（リンチ症候群（10 分 28 秒）HBOC（8 分 3 秒））、遺伝カウンセリング総論 1 本（13 分 37 秒）、気持ちのつらさアセスメント 1 本（5 分）、そして模擬事例 4 本（事例 1（10 分 32 秒）、事例 2（7 分 12 秒）、事例 3（7 分 3 秒）、事例 4（8 分 21 秒））である。模擬事例は、本研究グループメンバー 4 名で作成した。メンバー 4 名は、10 年以上にわたり遺伝性腫瘍の患者および家族への看護を実践してきている。全員、教員として勤務しながら、所属施設の病院や近隣の病院の遺伝相談部門において、臨床遺伝専門医とともにがん遺伝カウンセリングを実践している。今回の事例は、各々が経験してきた事例を参考に模擬事例を作成し、一般的に必要な知識と共に、家族の個性に合わせたアセスメントポイントをわかりやすく解説するなど工夫して作成した。

個別に学習ができる e-learning を提供するために、プラットフォームとなる研究用専用ホームページを作成し、研究協力者は、一定期間いつでも自由に何度でもアクセスできる設定とした。

(2) WEB 型交流ディスカッションプログラム：

遠隔会議システムを用いて 1 回集合する WEB 型交流ディスカッションは、3 時間を予定し、e-learning 事例のディスカッションと質疑応答、難渋事例のディスカッション、がんゲノム医療における意思決定支援の 3 部構成とした。

5) データ収集期間

東邦大学看護学部倫理審査委員会承認後～2024 年 3 月 31 日

6) データ収集方法

e-learning を提供する媒体として作成した研究用専用ホームページと、WEB 型交流ディスカッション終了後に、Google Forms を用いて意見を収集した。

7) データ収集内容

(1) 研究協力者の背景：

看護師経験年数、がん看護専門看護師経験年数、現在の所属先（がん診療連携拠点病とそれ以外）現在自施設でのがんゲノム医療への関与の実際（関与している・していない）遺伝性腫瘍の患者や家族への看護経験（あり・なし）を収集した。

(2) e-learning プログラムの視聴状況：

研究用専用ホームページから、個人の視聴時間・アクセス回数・滞在時間のデータを収集した。このデータは、途中でデータ収集することはせずに、専用ホームページはWEB 型交流ディスカッションの 1 週間後までアクセス可能とし、その後専用ホームページを閉鎖しデータを収集した。

(3) e-learning とWEB 型交流ディスカッションの組み合わせによる教育プログラムに対する意見：

WEB 型交流ディスカッション終了後に、Google Forms を用いて、e-learning 操作方法のわかりやすさ、実施環境、動画の長さ、文字や画面の見やすさ、視聴内容のわかりやすさ、WEB 型交流ディスカッションへの参加しやすさ、意見の述べやすさ、解説のわかりやすさ、教育プログラム全体についての改善点（自由記述）について意見を収集した。

8) 分析方法

e-learning プログラムの視聴状況は、全体の視聴時間・アクセス回数・滞在時間の特徴を明らかにした。WEB 型交流ディスカッション終了後のアンケートデータは、記述統計と自由記載は内容分析を行った。

4. 研究成果

1) 研究協力者の背景：

研究協力者は 17 名で、WEB 型交流ディスカッションの参加は 14 名であった。看護師やがん看護専門看護師経験年数が長く、現在自施設でがんゲノム医療や遺伝性腫瘍の患者や家族への看護に関与しているものが多かった。

表 1 研究協力者の経験値 (N=17)

	平均値	範囲
看護師経験年数	20.7	12 ~ 33
がん看護専門看護師経験年数	8.8	2 ~ 21

表 2 遺伝医療に関する実践経験値 (N=17)

		人数	%
現在の所属先	がん診療連携拠点病院	16	94.1
	その他	1	5.9
現在、自施設でのがんゲノム医療への関与の実際	関与あり	14	82.4
	関与なし	3	17.6
遺伝性腫瘍の患者や家族への看護経験	経験あり	17	100
	経験なし		
遺伝性腫瘍に関する研修会への参加	参加あり	16	94.1
	参加なし	1	5.9

2) e-learning プログラムでの視聴状況：

e-learning の視聴時間は、平均 264 分（約 11 日分、範囲：100 ~ 1068 時間）総視聴プログラム数は、平均 34 本（範囲：9 ~ 128）であった。総論や疾患に関する知識の e-learning プログラムの視聴時間が多い協力者、事例の視聴時間が多い協力者、両方の視聴時間が多い協力者の 3 様があり、遺伝性腫瘍の患者への看護実践の経験値の違いによるものと思われるが、さらなる解析を行う必要がある。

3) e-learning プログラムに対する意見：

全体的に簡潔にポイントがまとめられ、わかりやすく、基本的な内容が抑えられていて短時間で負担なく学べる点が評価され知識の整理に役立っていた。一方、1 枚のスライドの情報量が多く、手元資料があった方が良かったことや、口頭で強調されている内容を明確にスライドに示した方がよいこと、実際のカウンセリング場面の映像と解説編の 2 部構成に分けた方が、具体的にどのように問いかけるかなど、さらに学びが深まったのではないかとの意見があった。

表3 e-learning 教材に対する意見 (N=17)

		人数	%
e-learning の操作方法のわかりやすさ	わかりやすい	17	100
	わかりにくい		
動画の長さ	長い		
	ちょうどよい	17	100
動画の文字や画面の見やすさ	短い		
	見やすい	16	94.1
動画内容のわかりやすさ	見づらい	1	5.9
	わかりやすい	17	100
	わかりにくい		

4) WEB 型交流ディスカッションに対する意見：

次のような意見が多かった。小グループで自由に経験や体験、困っていることも共有でき、それぞれの施設での活動により考える視点が異なり、多面的な気づきになり、学びが深まった。知識を e-learning で整理・習得し、事例の検討、他者とディスカッションして多角的な意見を聴いて学習を深めることは有用であった。

このような評価があった一方で、経験や基礎的な知識により理解の程度も異なり、その不足を感じて意見交換に積極的に参画できないこともあったとのことから、内容やグループ編成を考慮することや、ディスカッションする時間を長くすることなどの提案があった。

表4 WEB 型交流ディスカッションに対する意見 (N=14)

		人数	%
WEB 型交流ディスカッションへの参加しやすさ	参加しやすい	13	92.9
	参加しにくい	1	7.1
WEB 型交流ディスカッションでの意見の述べやすさ	意見しやすい	10	71.4
	意見しにくい	4	28.6
解説のわかりやすさ	わかりやすい	14	100
	わかりにくい		

5) e-learning と WEB 型交流ディスカッションの組み合わせの教育プログラムに対する意見：

本研究において、e-learning の取り組みやすさと、集合教育との組み合わせによって学びが促進されたと評価は高かった。一方で、e-learning として何度も視聴可能であることを活かし、もっと事例のアセスメントを詳しく解説してほしいという要望もきかれた。

今後、研究協力者の背景と e-learning プログラムの視聴状況やアンケートデータを統合し、最終的に研究協力者からの改善に対する意見を記述的にまとめ、教育プログラムを修正し、全国のがん看護専門看護師に提供していく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 12件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 今井芳枝, 阿部彰子, 村上好恵, 武田祐子, 川崎優子, 坂東孝枝, 高橋亜希, 井上勇太, 阪本朋香, 吉田加奈子	4. 巻 22
2. 論文標題 遺伝性乳癌卵巣癌症候群と診断された乳癌罹患患者のリスク低減卵管卵巣摘出術後の思い	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 遺伝性腫瘍	6. 最初と最後の頁 68-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshikawa E, Fujisawa D, Hisamura K, Murakami Y, Okuyama T, Yoshiuchi K	4. 巻 89
2. 論文標題 The Potential Role of Peer Support Interventions in Treating Depressive Symptoms in Cancer Patients.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Nippon Med Sch	6. 最初と最後の頁 16-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上好恵	4. 巻 12
2. 論文標題 がん看護の現場で出会う"もやもや"との付き合いかた	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 YORI-SOUがんナーシング	6. 最初と最後の頁 8-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上好恵	4. 巻 7
2. 論文標題 再考! 「死にたい...」と云うがん患者の苦痛と看護師として求められる対応	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 エンド・オブ・ライフケア	6. 最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川崎優子	4. 巻 27
2. 論文標題 【がん看護キーワード15～がんの理解に必要な基礎知識～】がんの特性 がんゲノム	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 322-325
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井芳枝, 雄西智恵美, 川端泰枝, 町田美佳, 徳永亜希子, 榎本葵, 荒堀広美, 上田伊佐子, 板東孝枝, 井上勇太, 高橋亜希, 阪本朋香	4. 巻 42
2. 論文標題 がん治療に対する納得の尺度開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本看護科学会誌	6. 最初と最後の頁 281-290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田祐子	4. 巻 42
2. 論文標題 「ヒトの遺伝」リテラシー向上への社会実装の現状と課題 非遺伝専門医療職の「ヒトの遺伝」リテラシー 卒後の人材育成の立場から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本遺伝カウンセリング学会誌	6. 最初と最後の頁 51-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森本樹里, 今井芳枝, 板東孝枝, 高橋亜希, 高開登茂子, 中野あけみ, 近藤和也	4. 巻 77
2. 論文標題 治療を中止したがん患者がもつ回復への希望に対してジレンマを抱えた看護師の体験	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 四国医学雑誌	6. 最初と最後の頁 123-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村和美, 伊勢圭則, 橋本千尋, 塚原美香, 久保田美紀, 浅海くるみ, 村上好恵	4. 巻 26
2. 論文標題 初回化学療法を受けるstage IV肺がん患者の入院初日に抱える思いと看護へのニーズ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 561-566
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井芳枝, 宮本容子, 吉田友紀子, 阿部彰子, 村上好恵, 川崎優子, 武田祐子, 浅海くるみ, 板東孝枝	4. 巻 76
2. 論文標題 海外文献における遺伝性腫瘍に関する遺伝カウンセリングの動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 四国医学雑誌	6. 最初と最後の頁 45-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上好恵	4. 巻 30
2. 論文標題 【緩和ケアにおける 家族ケア ベストプラクティス】第11部 シチュエーションに沿った各専門家の家族ケア ベストプラクティス 家族性のがんと診断されたとき がん看護の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 緩和ケア	6. 最初と最後の頁 125-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上好恵, 川崎優子, 大川恵, 武田祐子, 今井芳枝, 鈴木美慧	4. 巻 4
2. 論文標題 緩和ケアの場で必要な遺伝性腫瘍の知識と遺伝カウンセリング(第7回) ゲノム医療のさらなる進化と看護師の役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エンド・オブ・ライフケア	6. 最初と最後の頁 84-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅海くるみ、村上好恵	4. 巻 35
2. 論文標題 薬物療法中に複数の症状を抱えた転移・再発乳がん患者の予後を見据えた外来看護の実践と困難	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本がん看護学会誌	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高山哲治, 五十嵐正広, 大住省三, 岡志郎, 角田文彦, 久保宜明, 熊谷秀規, 佐々木美香, 菅井有, 菅野康吉, 武田祐子, 土山寿志, 阪埜浩司, 深堀優, 古川洋一, 堀松高博, 六車直樹, 石川秀樹, 岩間毅夫, 岡崎康司, 斎藤豊, 松浦成昭, 武藤倫弘, 富田尚裕, 秋山卓士, 山本敏樹, 石田秀行, 中山佳子	4. 巻 20
2. 論文標題 小児・成人のためのCowden症候群/PTEN過誤腫症候群診療ガイドライン(2020年版)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 遺伝性腫瘍	6. 最初と最後の頁 93-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本博徳, 阿部孝, 石黒信吾, 内田恵一, 川崎優子, 熊谷秀規, 斉田芳久, 佐野寧, 竹内洋司, 田近正洋, 中島健, 阪埜浩司, 船坂陽子, 堀伸一郎, 山口達郎, 吉田輝彦, 坂本博次, 石川秀樹, 岩間毅夫, 岡崎康司, 斎藤豊, 松浦成昭, 武藤倫弘, 富田尚裕, 秋山卓士, 山本敏樹, 石田秀行, 中山佳子	4. 巻 20
2. 論文標題 小児・成人のためのPeutz-Jeghers症候群診療ガイドライン(2020年版)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 遺伝性腫瘍	6. 最初と最後の頁 59-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井 芳枝, 阿部 彰子, 吉田 加奈子, 村上 好恵, 武田 祐子, 川崎 優子, 阪本 朋香, 森 裕香, 御手洗 幸子, 入澤 裕子, 大川 恵, 日下 咲, 下川 亜矢, 納富 理絵, 松本 仁美	4. 巻 79
2. 論文標題 遺伝性乳がん卵巣がん症候群に対するリスク低減卵巣卵管摘出術への意思決定に関する海外の動向	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 四国医学雑誌	6. 最初と最後の頁 245 ~ 252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57444/shikokuactamedica.79.5.6_245	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上 好恵、今井 芳枝、武田 祐子、川崎 優子、浅海 くるみ、森 裕香、井上 勇太、阪本 朋香	4. 巻 79
2. 論文標題 がん看護専門看護師のがんゲノム医療への関与の実態	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 四国医学雑誌	6. 最初と最後の頁 165～172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57444/shikokuactamedica.79.3.4_165	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本 恵、今井芳枝、板東孝枝、高橋亜希、井上勇太、阪本朋香	4. 巻 37
2. 論文標題 がん遺伝子パネル検査で新たな治療に至らず現行のがん治療を継続していくときのがん患者の折り合い	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本がん看護学会誌	6. 最初と最後の頁 52-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川崎 優子	4. 巻 11
2. 論文標題 教育講演「がん医療における意思決定支援」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本放射線看護学会誌	6. 最初と最後の頁 26～28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24680/rnsj.110105	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 1件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 蓮岡佳代子、西本仁美、平沢晃、川崎優子
2. 発表標題 A病院におけるがんゲノム医療に対する認識度調査
3. 学会等名 第36回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮脇聡子, 岡島朋子, 川崎優子
2. 発表標題 がんゲノム医療外来を受診した患者のがんゲノム医療に関する認識調査
3. 学会等名 第36回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡本恵, 今井芳枝, 板東孝枝, 高橋亜希
2. 発表標題 がん遺伝子パネル検査が新たな治療に至らなかったがん患者の折り合いをつけていく体験
3. 学会等名 第36回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 今井芳枝, 竹内抄與子, 御手洗幸子, 須田有美, 村上好恵, 大川恵, 宇根底亜希子, 松本仁美, 内田恵, 宮脇聡子, 日下咲, 三浦美和子, 小野伊久美, 太田愛, 蓮岡佳代子
2. 発表標題 がん看護の中にゲノム医療を浸透させていこう～院内教育システムの構築を考える～
3. 学会等名 第36回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武田祐子
2. 発表標題 遺伝看護専門看護師育成の取り組みの実際と課題
3. 学会等名 日本CNS看護学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 黒澤亮子, 下条奈己, 森口容子, 馬越雅理, 碓美追子, 中村和美, 清水あさみ, 池田睦, 前田久美子, 北爪麻紀, 川又里美, 高地幸子, 祖父江由紀子, 節光江, 村上 好恵
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大に伴うがん看護への課題に関する取り組み
3. 学会等名 第21回東邦看護学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿部彰子, 今井芳枝, 香川智洋, 峯田あゆか, 西村正人, 岩佐武
2. 発表標題 gBRCA status別予後解析と遺伝学的地域性の特徴
3. 学会等名 gBRCA status別予後解析と遺伝学的地域性の特徴(会議録) 阿部彰子, 今井芳枝, 香川智洋, 峯田あゆか, 西村正人, 岩佐武 第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 兵庫哲平, 今井芳枝, 板東孝枝, 高橋亜希
2. 発表標題 急性期病棟でBSCとなった肺がん患者の家族の願い
3. 学会等名 第35回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 今井芳枝, 雄西智恵美, 荒堀広美, 川端泰枝, 町田美佳, 徳永亜希子, 榎本葵, 森美樹, 上田伊佐子, 板東孝枝, 高橋亜希, 阿部彰子
2. 発表標題 がん治療に対する納得の尺度開発
3. 学会等名 第35回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿部彰子, 今井芳枝, 宮本容子, 井上寛章, 笹総一郎, 山本由理, 桑原章, 岩佐武
2. 発表標題 遺伝性腫瘍における若年者、特にがん生殖医療の課題
3. 学会等名 第11回日本がん・生殖医療学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川崎優子
2. 発表標題 がん医療における多職種連携に基づいた意思決定支援
3. 学会等名 第62回日本肺癌学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川崎優子, 内布敦子, 田村和朗, 須藤保
2. 発表標題 がんゲノム医療における看護連携
3. 学会等名 第20回日本遺伝看護学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川崎優子, 平井啓, 中村友理香, 内布敦子, 木澤義之, 新居学
2. 発表標題 がん治療に関わる看護師、薬剤師、MSWの意思決定支援状況
3. 学会等名 第35回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田愛、武田祐子
2. 発表標題 地域医療支援病院に勤務する看護職の遺伝性腫瘍に関する知識と看護実践の現状
3. 学会等名 日本遺伝看護学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小野伊久美、武田祐子
2. 発表標題 遺伝性不整脈を持つ患者の体験に関する質的研究
3. 学会等名 日本遺伝看護学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川崎優子
2. 発表標題 ゲノム医療における人材育成 日本遺伝性腫瘍学会における遺伝性腫瘍コーディネーターの育成
3. 学会等名 日本癌学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村友理香, 平井啓, 新居学, 内布敦子, 木澤義之, 川崎優子
2. 発表標題 がん患者の治療の意思決定に対する満足度に関する心理学的構造
3. 学会等名 日本緩和医療学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 阿部彰子, 乾宏彰, 香川智洋, 峯田あゆか, 今井芳枝, 吉田友紀子, 宮本容子, 西村正人
2. 発表標題 BRCA変異とPARP阻害薬 上皮性卵巣癌におけるBRCA遺伝学的検査保険収載の益と課題
3. 学会等名 日本癌治療学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今井 芳枝、大川恵、日下咲、下川亜矢、納富理絵、松本仁美、阿部 彰子、吉田 加奈子、村上 好恵、武田 祐子、川崎 優子、森裕香、阪本 朋香、坂東孝枝
2. 発表標題 遺伝性乳がん卵巣がん症候群と診断された乳がん罹患者のリスク低減卵巣卵管摘出術前の意思決定の様相
3. 学会等名 第38回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川崎優子
2. 発表標題 教育講演「がん医療における意思決定支援」
3. 学会等名 日本放射線看護学会誌（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 蔭山恵美、今井芳枝、坂東孝枝
2. 発表標題 がん患者が抱えるスピリチュアルペインを捉えるがん看護専門看護師の思考
3. 学会等名 第38回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川崎優子、新居学、内布敦子、木澤義之、平井啓、清原花、西岡英菜
2. 発表標題 がん患者の意思決定支援アプリのfeasibility study
3. 学会等名 第28回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 村上好恵、武田祐子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 メディカルドゥ	5. 総ページ数 386
3. 書名 遺伝性腫瘍学入門 遺伝性腫瘍の基礎知識（編集：平沢晃）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	今井 芳枝 (IMAI YOSHIE) (10423419)	徳島大学・大学院医歯薬学研究部(医学域)・教授 (16101)	
研究分担者	川崎 優子 (KAWASAKI YUKO) (30364045)	兵庫県立大学・看護学部・教授 (24506)	
研究分担者	武田 祐子 (TAKEDA YUKO) (80164903)	慶應義塾大学・看護医療学部(信濃町)・教授 (32612)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------